

11月28日

石綿じん肺から肺がん移行

患者さらに二人

労基局が
総点検へ

石綿じん肺から肺がんを引起こしたところ、がん細胞がみつかり
た患者が、堺市長曾根町、国立環
養所近畿中央病院の瀬良好澄院長
までの調べで、二十七日までにお
らたに二人みつかった。これで患
者は十人、うち七人が死んでい
る。大阪労働基準局は石綿じん肺
と肺がんに密接なつながりがある
とみて、近畿中央病院や結核予防
会の協力で、石綿加工場で働いて
いる作業員や退職者についての総
点検に乗り出すこととした。

新しくみつかった二人の患者
は、いずれも石綿加工場で働い
たことのある男性。二人とも七十
しになって、タタタタを病後検査

したところ、がん細胞がみつかり
入院、現在療養中である。また、
大阪労働基準局管内二十年から
現在までに、四十二人が石綿じん
肺で労災患者として認められてい
るが、半数の二十一人が死んでい
おり、うち三・八割に当たる五人
が、肺がんへ移行して死んでいた
ことも同局長の調べでわかってい
る。

総点検の対象は、石綿加工場で
働いている従業員、かつて石綿
加工場で働いた人からも肺がん患
者が出ているため、退職者につい
ても調べらる。